

横浜みどりアップ計画市民推進会議 第10回「農を感じる」施策を検討する部会 会議録	
日 時	平成30年3月19日（月）午後2時00分～4時00分
開 催 場 所	関内中央ビル3階3B協議室
出 席 者	相川委員、大竹委員、蔦谷部会長、野路委員、初山委員（五十音順）
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	1 横浜みどりアップ計画「農を感じる」事業の評価・提案について 2 その他
議 事	<p>（事務局） 本日の会議の成立について報告をしておきます。 この会議は、横浜みどりアップ計画市民推進会議の運営要綱第5条第2項の規定によりまして、半数以上の出席が成立の必要要件となっておりますけれども、本日は5名全員ご出席ということになっておりますので、会が成立しているということをまず冒頭ご報告いたします。 それから、同要綱の第9条によりまして、この会議は公開ということになっております。本日の会議録につきましても公開ということになります。会議録は各委員の皆様の発言、お名前も載る形になりますので、事前にご確認いただきたいと思っております。 それでは、これから議事に入ってまいりますので、以降の進行は蔦谷部会長にお願いしたいと思います。</p> <p>（蔦谷部会長）既に全体会議が終了しておりまして、おおむねとりまとめについてはご賛同いただいたということとして、具体的な中身については各部会でもうちょっと審議するということになっております。そういった意味で、忌憚のないご意見等々いただきながら、最終的に評価なり、提案をまとめていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。 それでは、議題に入らせていただきたいと思います。 1番のみどりアップ計画「農を感じる」事業の評価・提案について、ご説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">（事務局説明）</p> <p>（蔦谷部会長）ありがとうございます。4か年の累計での実績についてご報告をいただきましたので、最初にハイライトでお気づきの点があればお願いします。</p> <p>（大竹委員） 前のよりも、わかりやすいと思いますけども、せっかくなので、どこかに、収穫体験農園や市民農園等の問い合わせ先を書いたらどうですか。神奈川県には7つあるけども、その場所がどこなのかというのがわからないので。もし行ってみたいなど思ったときにどこで調べればいいのかと思うのですが。</p> <p>（事務局） あとは、ここの中で表現するというより、そういう場所については、例えばホームページとかそういうので案内するというのはどうでしょうか。</p> <p>（大竹委員） 私は、ここにあったほうがいいのかと思います。どこか探すと</p>

	<p>いうよりは、ここにあったら探してみようかなと思うかな。</p>
(事務局)	<p>この市民推進会議報告書は、あくまでも市が推進していることに対して委員の皆様にご意見を述べていただくものなので、少し趣旨が異なります。</p>
(大竹委員)	<p>わかりました。でも、今のほうが見やすいと思います、前のより。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。</p>
(葛谷部会長)	<p>ほかにいかがでしょうか。 何か上の地図が農園付公園ですよね。農園の開設状況のすぐ下に地図があり、その下に農園付公園開設状況というタイトルが来ているので、それがわかりにくいかと思います。</p>
(大竹委員)	<p>細かいようですが、写真の下に、収穫体験農園や農園付公園と文字で説明がありますけども、せっかくなので、文字の横にも、凡例と同じような緑のポチや赤のポチをつけたほうがいいかなと思います。</p>
(事務局)	<p>それぞれ修正します。</p>
(葛谷部会長)	<p>環境学習農園って、そもそもどういう中身でしたかね。ほかはイメージが浮かぶのだけど。</p>
(事務局)	<p>小学校などに貸して、教育の一環として稲を植えたりだとか、また収穫をしたりする農園です。</p>
(葛谷部会長)	<p>基本的な管理は、農家がやってくれるんですか。</p>
(事務局)	<p>中間の管理は農家がやっています。全ては学校ではできないので。ただ、田植えと、あと除草と稲刈りは参加してやっているようですね。</p>
(大竹委員)	<p>私は、子どもたちがこういった体験をできる取組がすごく好きなのですが、これはどのくらいの数なのかや、どこにやってもらうとかというのは、どのように決めているのですか。</p>
(事務局)	<p>決めるのは学校側から打診があったりだとか、地域からこういうのをやりたいという話があった場合です。</p>
(大竹委員)	<p>市からは聞かないのですか。</p>
(事務局)	<p>聞いてないです。</p>
(大竹委員)	<p>本当は、みんなにやってもらいたいですよね。</p>
(事務局)	<p>実績は4か年ですので、それ以外でも当然従前から環境学習農園でやっている農園はございます。</p>
(葛谷部会長)	<p>新たな農園がこれに入っているのですか。</p>
(事務局)	<p>そうです。この第2期のみどりアップ計画の中での成果を報告書には書いています。収穫体験・環境学習農園につきまして</p>

は、これまでは農家さんが近くの小学校とか幼稚園、保育園さんなどの農体験を受け入れていただいていることが非常に多く、農家さんの持ち出しでやっていただくのは申しわけないということもありまして、この収穫体験農園の一種別として環境学習農園という形で取り組んでいるということです。

(野路委員) 小学校でも、結構古い学校なんかは、もう昔からそういうのをやらせている。小学校が田んぼもやるし、学年によっては畑もやる場所もある。

(大竹委員) 農家の方は大変だから、市民農園コーディネーターみたいな人をいかに活用するかということも大事ですね。

(靱山委員) 実質的には、教育ということで小学校などから依頼を受けて、近隣の農家の方たちが直接協力しているというのが、市内に相当数あるかとは思いますが。小学校から農協へも、教育の一環としてこういった内容でぜひやりたいということで、問い合わせ等が相当数あるのですけれども、やはり農家の方に全て対応していただくというのがちょっと難しい面もあります。

(野路委員) 環境学習農園は、1年ぐらいのスパンでやらないといけないから、やはりそれだけフットワークの軽い農家さんじゃないと対応できない。始終忙しいような農家さんでは、ちょっと受け入れはできないところがあるので。

(大竹委員) 横浜市も、子どもが少ないといってもやっぱり人口が多いから、なかなか難しいとは思いますが、子どもに農業を教えていくのが大事だと思います。

話がそれですけども、横浜市の給食はだんだん予算が少なくなっていると聞きましたが、ちょっと子どもたちが食べることを大事にしなくなるような気がして、寂しいです。やはり自分で抜いた大根を食べて、さわった土でできたもので食べてもらいたいなと思います。それが、絶対自分でつくるという意味ではないですが、体験をすると嫌いなものも好きになるし。体験してもらいたいなと思います。

(事務局) みどりアップ計画をやる前から、この環境学習農園は取り組んでいまして、現在は、17カ所あります。今回、2か所と書いてありますが、全体では17カ所。みどりアップ期間中2件ですが、またこれ増えていくように取り組みたいと思います。

(大竹委員) ぜひそこを強くお願いしたいと思います。

(事務局) はい。

(蔦谷部会長) ほかに何か。

(野路委員) 先ほど大竹さんが、市民農園コーディネーターとおっしゃっていましたが、「横浜市が認定した法人である市民農園コーディネーター」というのはどういうことですか。

(事務局) コンサルタントや造園をやっている方などで、市民農園開設について、技術、スキルなどの条件を持っていることを市で認定しています。農家の方が市民農園を開設する際に、どういうふうにつくればいいのかや、この立地だったらこういう

	<p>施設が必要だとか、水道が要るだとか、区画割りをこうした方がいいなどをアドバイスできる方です。市に依頼があれば、こういう方がいらっしゃるよとってご紹介しています。農家の方だけだと開設の仕方がわからないので、それをアドバイスしてスムーズに市民の皆さんへ農園の貸し付けができるようにしています。</p>
(野路委員)	<p>条件を満たしている人は、横浜市のほうでコーディネーターとして認定されるということですね。</p>
(事務局)	<p>そうです。年に2回程度研修を受けてもらったりしています。</p>
(大竹委員)	<p>市民農園コーディネーターの名簿はあるのですか。</p>
(事務局)	<p>あります。</p>
(野路委員)	<p>そういう人をお願いしたほうが安心できますね。</p>
(大竹委員)	<p>開設するにはそのコンサルタントがちゃんとついてやったけれども、その後、運営し始めた時に、まだ自分たちは本業じゃないからわからないとか言っているような人がいたので、開設するところまではその人たちと準備をして、開設後はまた違う人が必要なのかなと思いました。</p>
(事務局)	<p>そうですね。市民農園コーディネーターは運営面はやってないですね。あくまでどういうふうに開設していこうかというところが主眼です。</p>
(相川委員)	<p>開設したところが、現在どのような運営状況になっているかや、そういったのもわからない。ただ、開設することだけが目標で、実績だけしか見られていないようなので、それがどのような内容でやられているかというほうが重要なのではないかなと感じます。</p>
(事務局)	<p>営利目的で企業が入ってくるので、ちゃんとコントロールしながらやってきているのですが、その後がちゃんとうまくいっているかというのは、追っかけていけていません。市民農園のニーズは高く、もう200カ所以上ありますので。</p>
(野路委員)	<p>3か年に1回ぐらいアンケートはやっていますよね。</p>
(事務局)	<p>はい。実績報告はいただいています。ただ、あくまで実績報告で、課題までは聞いているのですが、現場も確認をしなくてはいけないかもしれません。</p>
(相川委員)	<p>ニーズは沢山あるのですが、実績として伴っていない。収穫農園は目標数の面積に対して半分ぐらい。市民のニーズもそうなのですが、なぜそのような実績にとどまっているのかや、農家の方の負担など実際やっけていけているのかなど、そういったところもちょっと見ていかないといけないのかなというのは、この報告書の目標値と実績値から感じられます。</p>
(事務局)	<p>収穫体験農園の開設は、農家の負担が多いようで、なかなか伸びていない。</p>

(葛谷部会長) 農協さんではどうしていますか。

(靱山委員) ほぼ横浜市さんの、こういった内容的には同じ形で支援しております。農協の立場としては、市民の方たちに農体験をしていただくことも非常に大事なことでありますが、最終的に農業を守ることを考えると、市民農園などは野菜をつくる以上に儲かるケースもありますので、今後農協としてどこまで支援するのかは難しいところです。そうすると、横浜市内の農家の方が野菜をつくるよりも、そういった事業のほうが収入が多いのであれば、「農業」という部分ではどうなのかな、あるいは、皆さんに食べていただく野菜をつくるということに携わっている農家としてどうなのか、という部分もございますので、その辺では難しい面はあるのかなとは思っています。

(葛谷部会長) 農業だけで十分生計を立てている都市農業者ってほとんどいないですね。アパート経営をしたり、いろんなことをしたりしてお金を生んでいかないと、農業をやっていくのは大変だということで、やはり市民に教えることによって農業を指導するコンサル料をいただく。そこから新しい兼業形態として位置づけています。農業の複合形態のような中に体験型農園があり、物をつくって売っただけが農家の農業の仕事ではないのではないかと。むしろ市民に教えることも新しい農業のビジネスの一環になるのではないかと、そういう理屈でやっているのですね。

(靱山委員) その理論は非常にわかります。決して市民農園などを否定するものでは当然ないですし、市民の方とともに農業をするという部分では当然重要な取組だと考えています。

(事務局) 多分、農家の方が直接ご指導されるなどして、そういった収入を得られるということであれば、農業経営の一環ということをご理解いただけたらと思うのですが、本当に土地をお貸しするだけで、企業さんが経営しているもので、地代がそれなりにいいと、規模を拡大したい農家に、いい農地が回らないというようなことを懸念されている声は、私どもも把握していますので、農協さんとしてはその辺がご心配なのかなというふうには理解しています。

(葛谷部会長) このハイライトのことでさらに追加でご意見等はございますか。1枚だけですので、書ける内容は限られていると思いますが。

(靱山委員) これについては、事業の内容を紹介というよりは、あくまでも今までの活動の結果を報告するという内容になるわけですか。

(事務局) はい。取組の柱2の中では、この市民農園の話というのを実績のハイライトとして載せましょうということで、その表現の仕方として今回変えてみました。気になるところや、アイデアも含めてありましたら、今のうちに言っただけだと助かります。みどりアップ計画の、役所が出しているほうの事業の取組の評価、検証という報告書もあるのですが、これは後半に各区のページがあり、どんなところで何をやったのかということ、地図に落とし込んである図があります。自分の地区でどんなことをやっているのかと確かめるには、こちらの報告書を見

ていただくのがいいかと思うのですが、市民推進会議の報告書はそこまでは細かくはないので、難しいのかなとは考えております。

(相川委員) ぱっと見て、区の位置がわからない。

(事務局) 確かにどこの区がどこにあるのかというのが、一般の方はわからないかもしれませんね。

(葛谷部会長) 基本的には、区を表示していただいて赤丸何か所、青丸何か所と、できるだけシンプルにもうまとめちゃうと。一番大事なのは、区がわかることと箇所数ぐらいがおおむねわかるようにすることですね。

(事務局) そういう工夫をして表示をしたいと思います。ありがとうございます。

(葛谷部会長) 次、身近に農を感じる場をつくる、こちらのほうでご意見お願ひしたいと思います。

この水田保全はスタート当初からやっていると思いますが、10年間の更新時期が近づいています。そのときに引き続き保全できるんだろうかと心配ですが、これは施策としては続けていかれるのでしょうか。

(事務局) 実際、21年度の当時から比べると水田の作付面積は減ってきています。ただ、保全に了承して取り組んでくださっている割合が多くなってきていますので、当初89ヘクタールだったものが今120ヘクタールまで伸びてきています。だから今後、高齢化だとか担い手の不足などの理由から、やっぱり作業できない、水田をできないという方が出てくる可能性はあります。そこで我々も水田を大規模にしたりだとか、手がかからないように省力化したり、担い手を育成したりという施策はほかでもやっていますので、10年をもって自動的に終わりというふうには考えてなくて、やはり農景観としては残していきたいと考えています。そのために、この事業を継続していきたいと思っています。

(葛谷部会長) 全体として若い後継者は育っているんでしょうかね。

(野路委員) JAの私どもの支店では、青壮年部に対して、育苗や機械の扱いの指導などを積極的に行っています。

(葛谷部会長) そうですか。農業自体の持続性や活性化が大変欠かせない視点だと思います。

(事務局) 水田の場合は、普通の畑作と違って、水を使ったりだとか特別な栽培の方法があって、なかなかすぐに農外からの参入ができないというような問題はあります。極力、水田をやっている方に借りていただいて、拡大していったりしています。

(葛谷部会長) 国の水田政策が大分変わってくる可能性があるのですが、それを見ながらということになると思うのですが、何とか守っていききたいですね。

(事務局) はい、国のように1ヘクタール、2ヘクタールなどで、どん

どん機械化している現場を見ると、横浜はそんな大きさではないので、維持していくのが大変厳しくはなっています。

(野路委員) このみどり税ができた時は、私たちJA女性部から声かけをして、この税による支援はいただきましょうというふうにして、ほとんどの方が恩恵を受けていると思います。そのほかに、JAに対しても、みどりアップ計画で乾燥機やコンバインなど、いろいろなものを助成していただいて、ほとんどそろいました。あとはもう人材だけですから、今、人材育成に、毎年力を入れてやっています。

(靱山委員) 横浜市全体で見ると、確かに年々減っているのが現状です。田奈地区については、若い方たちが積極的にお入りいただいています。横浜市内といっても、田奈地区あるいはいずみ野、飯田とか藤沢と接しているところが、市内でもまとまりのある水田があるところなんです。その他は局地的な部分での田んぼという形ではあるけれども、なかなか規模的に一団の田んぼというのがなかなか今難しい状況でございます。

(蔦谷部会長) ありがとうございます。  
26ページの施策1についての評価・提案、具体的に読み上げていただいたので、表現も含めてご意見があればお願いします。

(野路委員) 済みません、ちょっとお伺いしていいですか。「子どもの農体験」の子どもというのはおおむねどのぐらいの年代の方を言っているのでしょうか。

(事務局) 環境活動支援センターで行っている、親子で学んでいただくような農体験講座、家族で学ぶ農体験講座のことですので小学校をイメージしております。実際には中学生ぐらいまでオーケーにしても、参加されるお子さんは幼稚園から小学生までかなという気はします。

(蔦谷部会長) 小学校低学年など、できるだけ小さいときからやると、すごい体に入るといえるかな。

(相川委員) 本当に小さい2歳、3歳から親が連れてきて、もう田んぼでどろどろになって、いろいろ遊ばせてはいます。もう5年体験させて、苗も自分たちで前の年のもみから全部つくるのですが、低学年のころから参加してくれている子たちは、もうなれたもので、ちっちゃい子にどンドン教えたりとかしています。私たちはNPOでやっているのでもできますが、農家の方が、教えるのは、他の作業もありお忙しいので難しいと思います。そこをうまくコーディネーターが入っていけるなどできるといいかと思いました。

(事務局) 環境活動支援センターで行ったものは、小学生とその親御さんがほとんどです。それ以外の、委員がおっしゃったような地元でやられているものは、中学生も来られているのは事実です。

(野路委員) わかりました。ありがとうございます。

(事務局) 今の施策1の評価・提案のところですけども、一番下に、

子どもの農体験について記載していますが、ここで先ほども出ていましたので、「引き続き環境学習農園の開設や講座内容等に工夫をしていかれることを望みます」という形で環境学習農園も入れるという形で追加をしてはと思いました。

(大竹委員) そうだと思います。

(事務局) あとは、その1つ上のところで、「市民農園コーディネーターの活用により」というところがありますけども、ここで農園の開設のほかに、相川さんのほうから継続した運営のご意見もございましたので、例えば「農園の開設や継続した運営支援をさらに進めていくことを期待します」というように、修正したいと思います。

(大竹委員) 水田保全のところですけども、やっぱり達成していることを評価しますと言いながらも、今、10年目に来ているということもありますし、やっぱり減ってはきているということありますので、達成しているという言い方だけじゃいけないような気がします。

(事務局) 引き続き、それが継続していけるように努力して進めてくださいというような、そういうような。

(大竹委員) そうですね。

(葛谷部会長) 取組の継続の努力を引き続きお願いしたいと。

(大竹委員) そうですね。

(野路委員) そのほうがいいですね。

(葛谷部会長) あとはどうでしょう。

(大竹委員) 企業と連携で、いろいろつくられていますけども、何か高級なホテルに行かないとないという感じがして、あんまり宣伝になってないのかなという気がするのですけども。インターコンチネンタルホテルなんて1年に1回ぐらいしか行かない。だから、知っている人は知っているのかもしれないけれども、やっていることが広く知られているのかなという気はします。

(葛谷部会長) 1回スーパーへ行ったら、旗立っていたよ。横浜産の野菜とか、何か。

(大竹委員) 野菜は売っていますけども、企業と連携した何とかなのパンとか、マフィンとか。

(事務局) 先ほど事例で紹介させていただいたのは、インターコンチネンタルホテルのレストランですが、あれは地産地消フェアということで11月を地産地消月間にしているのですけれども、その月間の中に市内産の農畜産物を使ったメニューを提供して下さる方を、こちらでも積極的に宣伝させていただいてというような形でやらせていただいたという事例で、企業との連携はそのほかにも、大小さまざまやっています。今年はなかったのですが、例えば山崎製パンさんがランチパックで市内産のものを使っていたりとか。



(野路委員) ジャガイモとかですね。

(事務局) そうですね、そういったものもありました。ほかにも、ちょっとしたイベントもあり、例えば赤レンガで毎年2月にイチゴフェアをやっているのですが、そこに市内産のイチゴもちょっと出店したりとか、本当に多種多様、ちょっとしたものから大きなものまで、連携の件数として挙げさせていただいています。マフィンのほうは、ビジネス創出支援ということで、新しく地産地消に関する何かビジネスを始めようという方々をこちらで応援しようということで、まずやりたいという方にお申し出をいただいて、1年間、講座を受けていただいています。年に5回から7回の講座を受けていただいて、事業化のめどが立ちそうな方を選定して、翌年度の事業化のスタートの資金を少し支援させていただくみたいなものを行っています。事例はマフィンなどもあるのですが、物をつくるということには限らず、実はちょっとしたワークショップみたいなものだったり、結構いろんなものにチャレンジしたいという方の申し出があります。なかなか目につかないという話もありましたけど、いろいろ市民の方や企業の方と一緒に連携してやっていくことで、知らない方や、興味のない方にも目にとまる機会を少しでも増やしていけたらというようにやっています。

ただ、実際には、おっしゃっていただいたように、(市内産農畜産物の)生産量が多くないので、ランチパックのような大きな話が来ても、なかなか受けられないというのが正直なところで、規模が大きな話になると、農協さんにご相談して、何とかジャガイモを何トン手配できませんかみたいな話になるのですが、できるものとできないものがすごく限られてしまうのが現状です。

(大竹委員) ですね。二、三年前に、はまふうどコンシェルジュでパン出しましたよね。

(事務局) JRとの連携で、コンシェルジュと一緒に開発したという、お芋とか使ったパンですね。

(大竹委員) 私もかなり買って、みんなに配りました。おいしかったですね。もともとが少ないから、だからそういう話を違う会ですると、やっぱりセブンイレブンさんなんかは、定期的に物が入らないからつくれないとか。

(事務局) セブンイレブンさんも1回やっていただいたのですけれど。

(大竹委員) でも、やっぱりすごい期間が短いというか。だからこの辺が横浜の農業では難しいのかなと感じます。

(事務局) 色々なパターンがあっていいのかなと思っていて、インターコンチネンタルホテルなどみなとみらい3ホテルなどで、こういった横浜野菜が使われていて、農家さんからは、自分のつくった野菜がホテルでこんなすてきな形でおいしくつくられていくというのは、すごく張り合いが出てくると聞いていますので、そういったつながりも生まれるということが、まず1つあります。また、他にも様々な要素があって、市外からも大きな国際的な会議が来る中で、横浜野菜がアピールされるということもあります。さらに、ホテルの総料理長たちが横浜の農家さ

	<p>んを応援したいという気持ちで横浜野菜を扱ってくださっているの、非常に心強い応援団がいるのだなと感じています。</p>
(大竹委員)	<p>料理長さんは、決まったものじゃなくても料理しちゃうんですよね。その辺はすごいですね。</p>
(事務局)	<p>そうですね。色々な使われ方があっていいのかなとは思いますが。</p>
(葛谷部会長)	<p>ほかにいかがでしょう。レストランとか料理屋だとか、ああいうところはもともと横浜のやつを使っているところも結構ありますよね。</p>
(大竹委員)	<p>はまふうどコンシェルジュは、すごく力がついてきていて、一生懸命、農家とレストランをつないだりしていますよね。</p>
(事務局)	<p>そうですね。直接農家さんと取引されているところもありますし、本当に農協さんの直売所にいつも行って買っていますというレストランさんとかも結構多くて、直売所が大分ふえてきたので、買いに行きやすいという声も多いですね。</p> <p>サポート店のマップをお配りしましたが、このマップは都心臨海部だけなのですけれども、実際には市内で120店舗ぐらいサポート店があります。ただ、実際に横浜市内産を使っているお店はもっとあるはずなので、この制度をもっと広めて、実際、使っていただけたところも増やしていきたいし、把握にも努めていきたいなとは思っています。</p>
(野路委員)	<p>要望などがちょっと細かいものがありますよね。</p>
(事務局)	<p>なかなか年間通しては難しくて、できる範囲で、折々に使っていただいているようなところも多いです。</p>
(大竹委員)	<p>じゃあどうですか、評価内容の「企業と連携させて地産地消への関心を広げることを目的」のところ、こんなマップもつくりましたよと書いたらどうですか。</p>
(事務局)	<p>そうですね、広報だけではなく、そういったことを企業と連携しながらやっていくと書いたほうが、よりいいですね。</p>
(大竹委員)	<p>私は、子どものことをいつも思うので、はま菜ちゃん料理コンクールはずっとやっているのなら、もうちょっと宣伝していただいてもいいと思います。</p>
(事務局)	<p>学校のほうでは、相当宣伝していただいているおかげで、年々応募件数がとても増えていて、何年か前に1,000件突破したなどと思ったら、去年1,500、今年度は1,800となり、本当にそろそろ審査のやり方を考えないといけないかなというような状況になっているぐらいなので。</p>
(事務局)	<p>コンシェルジュの枠の中にいつも小学校の栄養教諭さんの枠というのをつくって、最大5人として、毎年3人から5人ぐらいの方に参加していただいています。そして、地産地消を学んでいただいて、学校の現場で市内産畜産物のことを教材の1つとして入れてもらっています。コンシェルジュ(の制度)は10年以上たって、そういった現場の教員たちが増えてきてい</p>

	<p>て、現場で食の教育をする中で地域の農産物はどんなものがつくられているかなど、はま菜ちゃんという教材を出して説明してくれているのです。その一環で、先生たちがはま菜ちゃん料理コンクールを夏休みの宿題として位置づけている背景もあって、先生たちのすごく熱意もあらわれています。</p> <p>(葛谷部会長) このコンクールってどういうものですか。</p> <p>(事務局) 子どもたちにレシピを出していただき、その中から6組の方に、本選で実際に調理していただいて、その中の二、三個が、大体2年後に実際に給食のメニューになるという形になります。</p> <p>(葛谷部会長) そうですか。</p> <p>(事務局) 子どもたちのやりがい大きい取組で、実際自分の考えたレシピが給食に出るということで、楽しみにやっていたいようですよ。</p> <p>(葛谷部会長) もちろん横浜の素材を使ってですね。</p> <p>(事務局) そうですね。テーマ食材を毎年決めさせていただいて、キャベツや小松菜など、これは必ず入れてね、あとは何を使ってもいいですよという形でやっています。</p> <p>(葛谷部会長) 大体よろしいでしょうかね。  3つに分けてご提案・ご意見をいただきました。最初のハイライトのところについては、表示の仕方をちょっと変えていただいて、地図を見て区名がわかるように、シンプルに整理をしていただくことが中心だったと思います。  それから、農を身近に感じる場所については、一番上の水田保全については評価するというだけでなく、引き続き継続をしていく努力をお願いしたいということ。  それから、特区農園の開設については、継続しての運営のお手伝いという言葉を入れてもらって。  それから、最後のポツでありますけれども、引き続き講座内容に工夫をと、そこに環境学習農園を具体的に入れてもらったらどうかということでもあります。  それから、地産地消の関係については、サポート店マップについてを、企業と連携のところにリンクさせて再整理していただけたらどうかということです。  そんなところでしょうか。総じてよくやられているということだと思いますけど、あと全体を通じてでも結構ですので、何かご意見、ご質問等あればお願いします。  なければ、本日は以上にさせていただきます。</p> <p>(事務局) これで第10回「農を感じる」施策を検討する部会につきまして、終了させていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>資料 ・ 特記事項</p>	<p>次第 資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議 平成29年度報告書(案)【抜粋】 資料2 横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度) 平成29年度事業目標及び進捗状況 [平成29年11月末時点]</p>